

○議長（茅沼隆文）

続いて、一般質問、3番、湯川洋治議員、どうぞ。

○3番（湯川洋治）

3番議員、湯川洋治でございます。

通告に従いまして1項目、質問させていただきます。開成駅の急行停車を見据えた駅周辺インフラ整備を。

小田急電鉄株式会社ホームページの2018年4月27日付け、2018年度鉄道事業設備投資計画で、10両編成の快速急行、急行の停車に向けて開成駅ホームの延伸工事を推進するとございます。開成町民の念願だった急行停車駅が、まさに実現しようとしております。この絶好な機会を捉え、駅周辺のインフラ整備をし、相乗効果を狙った施策が必要であり、現在計画が進行中の駅前通り線周辺地区土地区画整理事業の早急なる実現、駅前交番や郵便局の誘致、さらに企業誘致など、町民が期待している様々な事業を推進すべきと考えます。

また、急行の停車駅となることで町外からの利用者の大幅な増加が見込まれ、乗降客や送迎のための自家用車対策として、開成駅東西の各ロータリーの見直しやバス路線の復活が必須と思われれます。急行の停車駅となることで足柄上地区の新たな玄関口となるため、今後の駅周辺整備について町の考えを伺います。よろしく申し上げます。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、湯川議員の御質問にお答えをいたします。

駅周辺地域は、昭和54年3月に土地区画整理事業の実施を条件に、62.4ヘクタールのエリアとして市街化区域への編入が行われました。その後、小田急開成駅が開業し、その周辺26.4ヘクタールを平成8年に竣工し、前後して個人などによる施行区域も含め、現在、32.9ヘクタールが完了しております。進捗率は、約53%であります。さらに、平成27年には、隣接する南部地域26.7ヘクタールの土地区画整理事業が完了いたしました。このように、駅周辺地域は、神奈川県西部の副次拠点として都市・商業機能の充実と質の高い居住環境の形成に向けて整備を進めております。

そして、駅及び周辺の利便性向上のための施策に取り組むことで乗降者人員の増加を進めるとともに、開成駅への急行電車停車実現に向け、神奈川県及び県内12市9町1村と小田急電鉄で構成する神奈川県鉄道輸送力増強促進会議小田急電鉄部会において、地域の拠点駅としての開成駅の整備と停車本数の増加について、継続的に要望活動を行ってきました。また、開成町長としても、小田急電鉄の星野社長をはじめ役員の方々とお会いする等の様々な機会を捉えて、開成駅への急行停車実現を願う町民の声を届けてきました。

今年4月27日に小田急電鉄が発表した2018年鉄道事業設備投資計画におい

て、今年度中に実施予定のダイヤ改正から開成駅に10両編成の快速急行・急行の停車について、プレスリリースされました。通常ダイヤ改正等の発表は実施3カ月前が通常であると認識しておりますが、異例の早いタイミングでの発表であり、驚きとともに、これまでの取り組みの成果と実感をしたところでもあります。

子育て世代を中心とする定住促進は本町の大きな政策の柱であり、施策の推進によって現状においても人口増加は継続しております。この機会を捉え、さらなる町の発展を目指すには、開成駅への急行停車に関する事業の推進が不可欠だと考えております。

それでは、御質問の駅周辺のインフラ整備について、お答えをいたします。

まず、駅前通り線周辺地区土地区画整理事業については、みなみ地区と開成駅西口を結び、あわせて沿道の商業系土地利用を誘導することで都市機能の向上を図るものであります。平成30年度は、事業計画（案）などの作成、権利者の合意形成を進めるため戸別訪問を予定しております。本地区は、従来の保留地処分方式ではなく、土地所有者の総資産額を補償する減価補償方式になるため、権利者の方の合意形成が非常に大事であります。よって、丁寧な説明等を行い事業への理解を深めていただく必要があります。目標である平成32年度の事業認可に向けて一步一步、着実に進めていきます。

次に、開成駅前への交番設置については、平成8年12月に警察官が立ち寄れる神奈川県警察松田警察署開成駅前連絡所を開設いたしました。開成駅前の防犯活動や見守り活動を平成15年度から、開成駅前連絡所ボランティア安全サポーターの方に行っていたいております。

また、平成10年度以降、毎年、交番設置について県への要望書を提出しておりますが、開成駅前交番の設置について、県の見解は、全県を対象とした中での位置付けは低いのが現状であります。急行電車が停車することを契機として、さらに交番設置に向けた要望活動を推進してまいります。

そして、企業誘致については、みなみ地区の工業専用地域の2区画で、平成28年に1区画の企業誘致を実現いたしました。現在、企業誘致可能な1区画は、窓口などで3件ほど相談がありましたが誘致には至っておりません。引き続き、所有者である企業、神奈川県企業誘致促進協議会、関係金融機関等と情報の共有を図り、積極的に企業誘致を進めてまいります。

最後に、開成駅東西のロータリーであります。東口ロータリーについては、平成27年度の再整備により交通形態を分かりやすくシンプルにし、駅利用者の安全性や利便性の向上、従前なかった一時停車スペースを確保したところでもあります。

西口ロータリーについては、現時点では平成8年の開成駅周辺地区土地区画整理事業によって、バスの乗降場3区画、タクシー乗り場1区画、自家用自動車による各送迎で7台程度の一時停車ができるスペースを整備しておりますが、20数年の経過とともに、今後、急行停車によってどのような状況が想定されるか、検討する必要があります。

ると考えております。

したがって、鉄道事業者の動向、駅周辺の土地利用の見込みなどを検討する場として、小田急電鉄や関係機関と行政とで情報や意見を交換する場の設置など鋭意努めているところであります。このほか、駅の機能強化、利便性の向上に関係する総合計画等に掲げる施策について、町全体で取り組みを推進していきます。

以上であります。よろしく願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

湯川議員。

○3番（湯川洋治）

まず、開成駅の急行停車実現につきまして、町は継続的に要望活動を行ってきたと御答弁いただきましたけれども、私も同僚議員3名と昨年5月24日、新宿の小田急電鉄株式会社に伺いまして急行の停車について陳情してまいりました。結果、急行が止まることになりまして、大変喜ばしいことだと非常に喜んでおります。ただ、これは、やはり私どもが行ったから急行が止まったわけではなくて、町と一緒にやったからということで、本当に、その一助になったことをありがたく思っております。

それから、急行が止まることにつきましては、近隣の自治体、相当注目されていますので、今後、しっかりとした対応が私も必要と思っておりますので、この辺はひとつよろしく願いしたいと思っております。

それでは、再質問させていただきます。

まず、急行停車によって、どのような状況が想定されるか検討する必要があると御答弁をいただきましたけれども、その一つが駅の西口ロータリー、これの見直しが必要だと思っております。町内はもとより、町外の大井町、栢山富水地区、それから南足柄市などの送迎による駅西口ロータリーの利用者の増加が相当見込まれるのではなかろうかと。通勤・通学においては、大変な混雑が予想されると思っております。

以前、私が一般質問におきまして、駅前通り線周辺地区土地区画整理事業に関しての質問をさせていただきました。そのときに、駅ロータリーの混雑に対し乗用車や企業の送迎バスの駐停車場について質問しました。そのときの答弁が、駅前通り線周辺土地区画整理事業と並行して考えていきたいと言っていたいただきましたけれども、急行停車が決まってしまうので、先行していますので、その辺の考え方が変わっているのか、変わっていないのか、ちょっとお聞きします。

○議長（茅沼隆文）

まちづくり部長。

○まちづくり部長（石井 護）

お答えさせていただきます。

変わっているかどうかという部分がどういう意味か、ちょっとあれですけども、そのときには、今、議員の御質問では、駅前通り線の区画整理とともに考えると答弁したということだと思っておりますけれども、それにつきましては、当然、そのときは、ま

だ急行停車という部分がなかったですから、今回、先程、町長答弁もさせていただきましたけれども、急行停車によって、我々もそうですし、議員も思っているとおり、相当人数も増えるだろうということがございますので、そこは鉄道事業者等と、まずは。鉄道事業者はいろいろ駅を抱えているわけですから、ノウハウですとか、そういったものは非常に持っていると思いますので、それらと、まずは意見交換をして、今の西口ロータリーという部分をどうしていったら良いのかというのを調査していこうという形で、今、動き出しております。

したがいまして、結論から申しますと、駅前通り線云々という部分がセットということではなくて考えることも必要かなと思っております。

○議長（茅沼隆文）

湯川議員。

○3番（湯川洋治）

今、部長がおっしゃったように、私も同じような考え方を持っていますので、何が何でもやってくださいというのではなくて、やはり質問して、そういう答えが返ってきて急行が止まることになったので、どちらかというところ、やはり一番優先なのはロータリーの改修、要するに、止めるところがないという実態が出てくると思います。

これは、この間、質問したときもそうだったのですけれども、それから塾ができて、塾の送迎も夜間やっていますので、やはり相当混雑するという状況が見られますので、まず手をつけていただきたいのがロータリーの改修。噴水と高木がありますけれども、立派な噴水を持っていますけれども、必要ないのではないかと。あの辺を利用していただいて、スペースを確保していただければありがたいかなと私は個人的に思っております。

それから、駅前通り線について、これは平成32年度事業認可に向けて着実に進めていくということで答弁をいただいたのですが、現行の1年に一度の説明会では到底、地権者は納得しないと思います。また、過去5回、説明会を行っていますけれども、認可申請が1年先送りになったという経過もありますので、なかなか前進していないという実態がありますので、私は、この事業の大きさを考えると、現行の街づくり推進課では職員数が絶対的に足りないと思います。

要するに、町道の補修整備、穴ですね、これを課長自身が行って修理しているという実態がありますよね。とてもじゃないけど、そこまで課長がやるのかという実態が見えますので、そうではなくて、事業に邁進するためには、やはりプロジェクトチームをつくって、そこに専従的な職員を配置する形で、別物として考えていったほうが良いのではないかと思います。40数億かかるということを言われていますので、こういうプロジェクトはやはり別物でやっていただきたいと思いますが、その辺はいかがですか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

今回の開成駅の小田急線の急行停車というのは、すごく大きな意味を含んでいる。開成町の将来にとって。今、湯川議員から駅前の改修の話が出ましたけれども、もっとトータルで、開成駅が急行が止まるにふさわしい駅というものはどういうものか、その前の駅前のロータリーというのはどういうものが必要なのか、駅前通り線もそれにあわせて、この辺はきちんと考えていかなくてはいけない大事な時期だと今は思っています。

それを、ただ町だけではなくて、きちんと小田急も巻き込んだ中で構成を検討していくというのは、今、指示をしておりますけれども、正式に協議会を立ち上げたり、これからまちづくりについて小田急と協定を結べるように持っていきたいと考えております。それに対して役場の中の体制もきちんと、大きな事業でありますので、それに対応できるような体制へと考えていく必要があるという、そういう認識でおります。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

湯川議員。

○3番（湯川洋治）

これは、ぜひお願いしたいと思います。現行の、先程、申しましたように、街づくり推進課のメンバー、本当に少ない人数で一生懸命頑張っておられますけれども、これは大変な努力が必要だと思います。やはり人に説明して納得していただく、地権者や住民の方、アパートの方もいらっしゃいますけれども、その人に個々に当たっていかないとなかなか結論は出ないと思います。それで、これ、地権者の方が「また来たのか」と、「もういいよ」というぐらい行ってくださいよ。それでないと、なかなか前に進まないと思います。

それから、急行が止まることになったのですけれども、小田急電鉄株式会社から町へ特に要望というのはあったのでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

まちづくり部長。

○まちづくり部長（石井 護）

私からお答えさせていただきますけれども、結論から申しあげますと、特に小田急電鉄から、こうしてくれと。例えば、今、御議論になっているロータリーについて、町として何か改修してくれだとか、そういった要望は一切なかったと思っています。

○議長（茅沼隆文）

湯川議員。

○3番（湯川洋治）

小田急も民間企業ですので、採算の合わないような事業はしないと思います。やはり開成町に魅力があって採算がとれると踏んでいるから急行が止まると認識します

ので、ある意味、小田急に協力していただいて利用しやすい駅づくりというものを期待していますので、ひとつよろしくお願いします。

次に、バス路線について伺います。町長からの答弁はありませんでした。しかし、現状、開成駅発の路線バスは1時間1本あるかないか、和田河原経由関本線、これも土曜日が1本、日曜日が1本、ほとんどないに等しいです。この辺を、急行が止まる駅になる以上、やはり路線バスが必要と思われるのですけれども、路線バスについて町の考えは、ある程度ありますか、何もないですか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

もちろん、新しい新規路線バスを開拓したいという意向はすごく持っています。特に、足柄紫水大橋も開通して、大井町も255号線までの和田河原開成大井線を県が整備するという事も見えておりますので、できれば新松田大井開成線を含めて新規路線を誘致したいという思いはあるのですけれども、現実的に、今の打診の中では、バスの運転手確保を含めて、企業側でなかなかその辺が難しいという話も聞いておりますので。それはそれとして、町は町で必要な部分においてはいろいろな事業者を巻き込みながら、先程ではないのですけれども、小田急だけではなくて、今度は様々なバス事業者も含めながら検討する会をきちんとつくっていきながら、その中で考えていきたいと思っております。

○議長（茅沼隆文）

湯川議員。

○3番（湯川洋治）

町長のおっしゃるとおりかもしれませんね。私、やはり思っているのですけれども、先程のロータリーが混雑するというのも、やはりバスがないから、バス路線が何もないからマイカーで送迎して送ってくるしかない。そうすると、さっきの質問ではないのですけれども、ロータリーが混んでしまうというのがあると思います。

バス路線にもいろいろあると思うのですけれども、小田急と箱根登山というのは切っても切れない縁がある会社ですので、そこへ、こちらから話を持ちかけるとか、現在、富士急行が第一生命を松田から送っていますけれども、そのバスの路線がありますけれども、相当の乗降客がいるわけですから、これを開成駅から送るという形も将来、想定できると思いますので、ひとつ、路線バスもぜひ考えていただきたいと思えます。

次に、路線バスがなかなか難しいといったときに、今度は、今、私どもの町でやっている巡回バス、この利用がどうなるかというのがちょっと頭にありますので。ただ、今、2台でやっておられますよね。ただ、やっているのですけれども、現状は無料で送迎していると。福祉が目的ですから、やむを得ないところもあるのでしょうけれども、利用者が増えれば増えるほど赤字になりますよね。例えば、委託料でやっていま

すけれども、タイヤも摩耗するだろうし整備点検もかかるだろうということで、人が利用することによって多分、委託料を途中で補正しなくてはならないような事態があるかもしれませんので、その辺を、どう巡回バスを今後、対応していくのかというのを、ちょっと、ありましたら。

○議長（茅沼隆文）

保健福祉部長。

○保健福祉部長（田辺弘子）

巡回バスのことなので、私から説明をさせていただきます。

今現在、バス2台で東西線、あと南北線ということで巡回をさせております。当初は高齢者の足の確保というところでスタートしましたがけれども、現実的には子育て中の親子の方も利用されて子育て支援センターに行ったりということで、今現在は幅広く町民が利用しているという実態がございます。

ただ、巡回バスについては月に40人程度を目標にしながらやってきまして、今年度に入って月40人を超えるという形で、徐々に月日が経過するとともに人数が増えているという状況でございます。ただ、今年度からバスに広告掲載ということで、事業者から広報の、運転手側にポスターを掲示したりというところで、広告料も実際に入ってきていますので、その辺も加味しながら、委託料を少しでも自主財源という形で運営していきたいと考えているところでございます。

○議長（茅沼隆文）

湯川議員。

○3番（湯川洋治）

大変な苦勞をされていると思うのですけれども、例えば、認可の問題もあるのでしょうけれども、私は、これ以上、無料で動かす必要があるのかと思っています。やはり、ある程度、一定の年代の方には相当分の負担をしていただきたいと、そんな考えも持っていますので。これを負担するのは大変な問題が出てくるかと思うのですけれども、まるっきりただで運営しているというのはいかがなものかなと思っていますので、ある程度の年代の方は100円でも払ってもらう形をとっていただければなど、そう考えております。

次に、交番の設置についてお尋ねします。午前中、同僚議員から交番のお話がありましたけれども、駅前交番は急行停車を契機として要望活動を推進していくと町長答弁がございましたけれども、県の中では順位が低いというのは、これは結構、聞く話なのですけれども、神奈川県でも新規予算というのはなかなかとれないそうです。

例えば、下島に信号機を設置しました。500万かかったそうですけれども。信号機は新規ではないと。これは、明治ゴムの下の信号を減したから1個増えたのだと。一増一減なのだという、県の人のお話ですよ、そういう話もありますので、私は、吉田島駐在とか延沢の駐在の地元の方には大変申しわけないと思うのですけれども、500メートル離れていないですよ、直線。そこに駐在が2カ所あるのですから、

この駐在を統合していただいて、減った分を交番として申請するような形をとるべきだと思っておるのですけれども、その辺はいかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

今、微妙な提案をしていただきましたけれども、今度、県への要望として。今までも交番設置の要望は、もうずっと続けてきておりますけれども、やはりいろいろ提案の仕方を考えなくてはいけないのかなという。どういう方法であれば実現が早くなるか、これは、やはり松田警察署ともいろいろ協議をしながら、提案の仕方、要望の仕方を考えていきたいなと考えております。

○議長（茅沼隆文）

湯川議員。

○3番（湯川洋治）

私の今、発言したのは、やはり県の関係者から聞いた話であって、事実かどうかというのは、それなりの人物ですので、多分、本当のことだと思うので、そんな形で申請していただければありがたいという形でお話しさせていただいたのですけれども。

これは当然、私もボランティアであそこにいますけれども、なかなか、やはり、あそこにいると本当のボランティア活動しかできませんので、大変な問題があって判断するのも非常に難しいときもありますのでね。すぐに交番から警察へ電話して来ていただくような形があると思うのですけれども、ボランティアをやっている方も大変な思いをしてやっていますので、何としてもね。急行が止まる駅に交番がないというのが、どうも納得できないというか。誰も、そこへ来て分からない人は、まず交番に行くだろうという考えを持っているので、交番の話は県などを通じて推進していただいて、ぜひ実現できるようにお願いしたいと思います。

5分ほど残っていますけれども、ここで質問を終わります。

○議長（茅沼隆文）

これで湯川議員の一般質問を終了といたします。